

「決壊してからでは遅い」という教訓を残した鬼怒川の水害。自分の住んでいる地域の浸水特性を正確に把握することが大事です。



平成27年9月の関東・東北豪雨では、鬼怒川が決壊。茨城県常総市では広範囲に渡る浸水に加え、避難勧告の遅れや主体的な避難が十分ではなく、約4,300人が救助されることになりました。

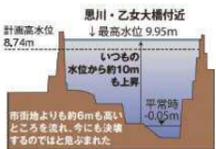
平成27年9月 関東・東北豪雨 鬼怒川 常総市三坂付近

栃木県を流れる思川、巴波川でも、実は決壊寸前でした。

関東・東北豪雨では、栃木県の思川、巴波川でも過去最高の水位を観測し、堤防スレスレまで水が上がり、川は満杯。いつ決壊してもおかしくない状態でした。



平成27年9月 関東・東北豪雨 思川 松原大橋付近



周辺河川の決壊を防いだ渡良瀬遊水地

思川、巴波川の決壊を防いだのは、渡良瀬遊水地がそれらの洪水流を取り込み、危ういところで水位を低下させたからです。この時、遊水地では、過去最高の8600万m³、東京ドーム約70杯分の貯水量を記録しました。



平成27年9月 渡良瀬川・渡良瀬遊水地の出水状況

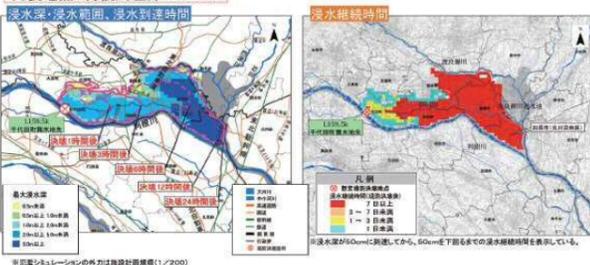
川から離れて暮らしていても、安心しないで下さい。

鬼怒川が決壊では、常総市の約1/3にあたる約40km²の区域が浸水被害を受けました。避難勧告の遅れもありましたが、救助された方からは「これまで浸水したことがなかったから」という声もあり、主体的な避難が十分ではなかったことがわかりました。利根川は浸水区域が広大ですので川から離れているからといって安心せず、自分の住んでいる所の浸水特性をあらかじめしっかり把握して下さい。

① 利根川上流部左岸ブロック (氾濫特性、滞留特性)

利根川左岸159.5K地点(千代田町舞木地先)で堤防が決壊すると、氾濫流は谷田川沿いに明和町、板倉町と流下し、早いところでは決壊後10時間ほどで加須市(北川辺地区)まで到達する可能性があります。この地域では利根川左岸、渡良瀬川右岸、渡良瀬遊水地の堤防に囲まれた貯留型の氾濫形態となり、氾濫量が多いため、板倉町と加須市(北川辺地区)の広範囲にわたり浸水深が5m以上と深くなり、また、浸水が7日以上と長期化するおそれがあります。

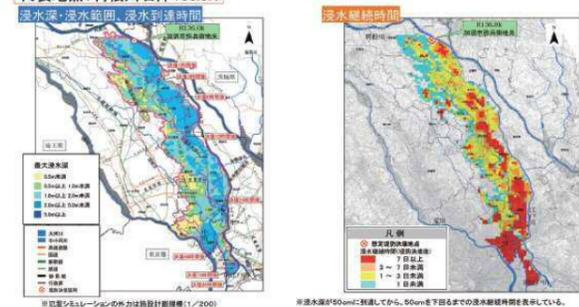
代表地点: 利根川左岸 L159.5K



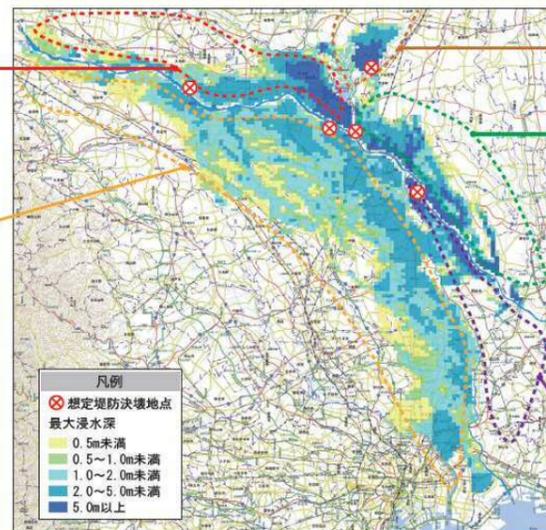
② 利根川上流部右岸ブロック (氾濫特性、滞留特性)

利根川右岸136.0K地点(加須市弥兵衛地先)で堤防が決壊すると、昭和22年カスリーン台風と同様に氾濫流は中川沿いの低地を主に流れて埼玉県内を流下して、2日目には東京都内へ達し、広大な地域が浸水する可能性があります。氾濫流の主流となる中川沿いの低地は浸水深が2m以上と深くなるおそれがあります。また、中川沿いの低地及び旧江戸川、荒川の堤防に囲まれた都区部では、氾濫水が滞留し、浸水が7日以上と長期化するおそれがあります。

代表地点: 利根川右岸 136.0K



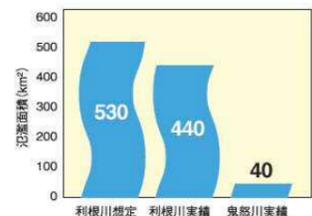
利根川上流浸水想定区域図



※注: 計画規模相当の洪水: 概ね200年に一度の確率で発生する規模に相当する洪水

カスリーン台風による氾濫とH27関東・東北豪雨による氾濫の比較

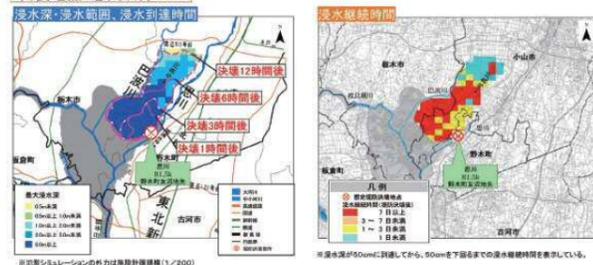
カスリーン台風による氾濫面積は、440km²。現在、同じ場所で利根川が決壊すると、当時より堤防が高くなっているため、氾濫面積は1.2倍UP。



③ 渡良瀬遊水地周辺ブロック (氾濫特性、滞留特性)

思川右岸1.5K(野木町友沼地先)で堤防が決壊すると、氾濫流は与良川沿いの低地を北側へ遡上し、小山市や栃木市まで到達する可能性があります。この地域は思川右岸、巴波川左岸、渡良瀬遊水地の堤防に囲まれた貯留型の氾濫形態となり、広い範囲で浸水深が5m以上と深くなり、また、浸水が7日以上と長期化するおそれがあります。

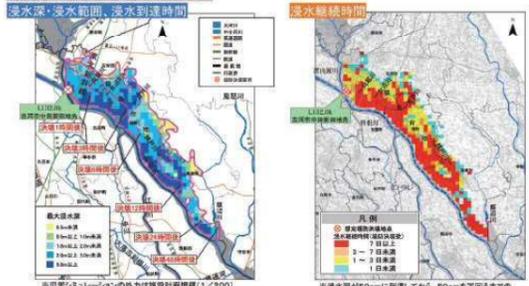
代表地点: 思川右岸1.5K



④ 利根川中流部左岸ブロック (氾濫特性、滞留特性)

利根川左岸132.0k地点(古河市中田新田地先)で堤防が決壊すると、氾濫流は利根川と猿島台地に挟まれた低平地を古河市、境町と流下し、坂東市に至り、飯沼川合流点まで到達する可能性があります。氾濫流は堤防決壊後、境町へは3時間程度、坂東市へは10時間程度で到達し、利根川堤防沿いや、利根川に合流する向堤川、女沼川、宮戸川、鶴戸川等に沿った低地、飯沼川の合流点付近では、浸水深が5m以上と深くなるおそれがあります。また、これらの地域は氾濫水が滞留し、浸水が7日以上と長期化するおそれがあります。

代表地点: 利根川左岸 132.0K



⑤ 利根川中流部右岸ブロック (氾濫特性、滞留特性)

利根川右岸118.5K地点(野田町関宿台町地先)で堤防が決壊すると、氾濫流は野田市北部地域から中部地域にかけて流下し、堤防決壊後約6時間で北部地域全体、約12時間で中部地域全体が浸水する可能性があります。この地域では利根川右岸堤防と江戸川左岸堤防及び下総台地で囲まれた貯留型の氾濫形態となり、利根川右岸堤防沿いでは、浸水深が5m以上と深くなるおそれがあります。また、上流で堤防決壊した氾濫水は、決壊口から利根川へ戻らないため滞留し、ほとんどの区域では浸水が7日以上と長期化するおそれがあります。

代表地点: 利根川右岸 118.5K

